

義務教育課だより 9月号

9月になり、長い夏休みを経て、各学校には子供たちの元気な声と笑顔が戻ってきたことと思います。

現在、愛媛県は「感染対策期」として、感染拡大を抑え込む努力が続いています。子供たちは、昨年に引き続き、外で思いきり遊んだり、家族と外出したりすることを十分に楽しめない夏休みを過ごしたかもしれません。一方で、いつもより家族とゆったりと語り合ったり、自分の興味があることにじっくりと取り組んだりして、夏休みだからこそその成長が感じられる場面もあったことでしょう。

8月20日付け文部科学省の通知には、「学校は、学習機会と学力を保障する役割のみならず、全人的な発達・成長を保障する役割や居場所・セーフティーネットとして身体的、精神的な健康を保障するという福祉的な役割をも担っている。」と示されています。2学期のスタートに当たって、まずは、一人一人の居場所として、子供たちを温かく迎え入れることが学校の大切な役割です。夏休み明けであることに加え、長期間にわたるコロナ禍により、心が不安定になっている子供たちが増えていることが懸念されます。子供たちの心身の健康状態をきめ細かく把握し、必要に応じて教育相談等を速やかに行うなど、心のケアに努めましょう。

また、今後、万が一、臨時休業等になった場合でも、子供たちの学びを止めないために、1人1台端末を活用したオンラインでの学習を視野に入れながら、各学校において、具体的な手立てを考えていただいていることと思います。今後の感染拡大状況等に応じて、臨機応変に対応できるよう、引き続き準備をお願いします。

2学期には、運動会や文化祭等、子供たちが心待ちにしている行事を予定している学校も多くあります。学校は、児童生徒の社会性を育てていく役割も担っています。そこで大切なのは、他者と協働する活動です。先生方自身も小学校、中学校の頃を思い返してみた時、鮮やかに浮かんでくるのは、仲間とともに過ごした楽しい出来事などではないでしょうか。ゴールまで一生懸命走る友達を全力で応援する運動会、みんなでアイデアを出し合い工夫を凝らした文化祭など、これらの学校行事は、協働的な活動を通して、よりよい人間関係の形成や合意形成、意思決定をどのように行っていくかなど、生きて働く力を育成する貴重な機会です。

コロナ禍においては、開催する時期、場所や時間、開催方法等について十分配慮することが必要ですが、今一度、一つ一つの学校行事の意義を問い直し、子供に経験させたいことを焦点化しながら取り組んでいただきたいと思います。その際、地域の感染状況等を踏まえ、感染症対策の確実な実施や保護者などの理解、協力を得ることに努めるだけでなく、子供たちと先生方が目的を共有し、共に行事をつくり上げていく運営となるようお願いします。

このような時だからこそ、できない理由を考えて後ろ向きになるのではなく、子供たちの健やかな成長のために知恵を絞った様々なアイデアで、できることに前向きに取り組み、その実践を学校間で共有しながら、この大変な状況を共に乗り越えていきましょう。